

Title	海外設備投資計画の経済性評価 - N社の事例研究を中心に -
Sub Title	
Author	白鳥俊則(Shiratori, Toshinori) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第848号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0848

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	白鳥 俊則 (NTN株式会社)	主査 伏見多美雄 副査 小野桂之介 柴田 典男
所属	伏見多美雄 研究室	

海外設備投資計画の経済性評価 — N社の事例研究を中心に —

これまでの日本企業の海外設備投資は、円高・貿易摩擦・ユーザー企業の海外進出等への対応といった、どちらかといえば政策的な要素で意思決定されることが多く、設備投資の経済性についても充分評価されていたとはいえない。しかし、積極的な海外投資の結果、世界中に生産・販売拠点を確立してしまった企業にとって、今後の海外設備投資は、日本国内での設備投資と同じように経済性の評価を充分に行う必要があると思える。しかし、これまでには、海外設備投資の経済性を評価する適当な評価モデルはないように見受けられる。本研究の目的は、以上のような認識から、海外設備投資の経済性を評価する分析モデルを提示することにある。

本論文では、まず第1部において、海外設備投資の経済性に影響を与える問題点を整理しその仕組みを明らかにしている。次に、外国税額控除制度や移転価格税制といった複雑な国際税務の問題を一般化することにより、実務でも応用可能なシミュレーションモデルを提示する。続く第2部・第3部では、第1部で提示したシミュレーションモデルの応用例としてN社の実際の海外設備投資の例を取り上げ、まず、物価変動や為替変動が安定的であるときに、企業の資金調達や利益送金の方法が海外設備投資の経済性に与える影響について親会社と海外子会社の資本の利率をさまざまに変化させ感度分析を行う。次に、企業の資金調達や利益送金の方法をN社が行おうとしている方法に固定し、物価変動や為替変動が海外設備投資の経済性に与える影響について親会社と海外子会社の資本の利率を様々に変化させ感度分析を行う。その結果を優劣分岐線分析を用いて、グラフで現すことによりN社の投資案の優劣の比較検討を行っている。